

高・大・一般（仮名有段）

清水 文博

元永本古今集 ⑦

ゆきのうちに
はるはきにけり
うぐひすのこほれる
なみだいまやとくらむ

ゆきのうちに
はるはきにけり
うぐひすのこほれる
なみだいまやとくらむ

〈釈文〉 ゆきの^{支能}うちにはる^者はきにけり^{尔介里字}うぐひす^{悲須}のこほれる^保なみだ^{那美多}いまやとくらむ^無

ゆきのうちに
はるはきにけり
うぐひすのこほれる
なみだいまやとくらむ

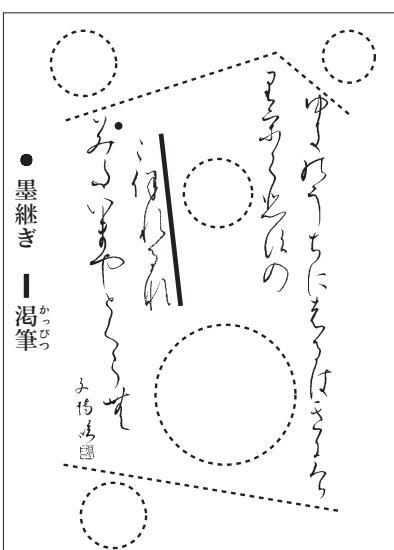
本課題は「元永本古今集」を半紙に展開したものです。歌の大意は「まだ雪のあるうちに春がやって来た。寒さで凍っていた^{うぐいす}鶯の涙も、今ごろは解けているだろうか」です。二条^{きさき}后^{ふじわらのこうし}（藤原高子）のよく知られた歌です。

今回は、和歌本文の冒頭から四番目の歌を取り扱います。和歌本文の前には仮名序（仮名で書かれた序文）がありますが、今回書く部分は仮名序の大きな字粒を受け、三行で書かれています。もともと文字が大きめに書かれた部分のため取り組みやすいと思います。白色の紙に、細く緊張感を持って書かれた運筆が際立っています。

〈学習上の留意点〉

課題では、細線に気をつけましょう。二行目の墨が多く入っていない部分は細線を表現しやすいと思います。ただし、細く書きすぎないようになしてください。細すぎる線は筆力ある筆致になりません。

穂先のみ下ろした柳葉筆と、仮名用の白色半紙を使用しましょう。磨^すった墨で書いてください。



高・大・一般 漢字仮名交じり書

新(10)級から五段までは作品用紙として画仙紙ハツ切り(68 cm×17.5 cm)又は、画仙紙半切(136 cm×35 cm)の出品。
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136 cm×35 cm)のみの出品です。

鈴木 昭和



〈釈文〉ただ過ぎに過ぎるもの 帆かけたる舟

人の齡 春夏秋冬

〈出典〉枕草子

〈意味〉ただ一方的に過ぎに過ぎていくもの。

帆掛け舟。人の年齢。春、夏、秋、冬。

「春はあけぼの」で始まる清少納言「枕草子」の一節(二八一段)です。美意識・美学・感性・趣味嗜好などが端的な表現で示された古典であり、平易な文なので、漢字仮名交じりの作品のよい題材と考え選びました。

本課題は画仙紙半切縦(五段までは画仙紙ハツ切でもよい)にまとめています。行数や字配り、書体書風はぜひ皆さんが創意豊かに展開してください。漢字仮名交じりの書では「漢字と仮名の調和」がテーマです。ご自身の過去の学

びを基礎に運筆を心掛けてください。ヒントとして、私なりのまとめと意図を紹介します。

〈解説〉

自然な墨継ぎと文字の大きさ、太細の変化を心掛けて、二行でまとめました。全体的に筆管を立てて筆圧の差を出し、二度出てくる文字や前の行を意識しながら、太い線と細い線を使い分けて表現して、更に行間を空け、暑苦しさを解消するように書いています。

二行作品では、隣の行の文字との響き合いを意識することが重要です。本課題では一行目の動きを抑え、二行目は大きめの動きを意識しました。日頃の整然と半紙に書きまとめる意識を捨てて、大胆な構成に挑戦してみてください。

読者の皆さんには「自己のまとめ」をして書

いてほしいと思います。漢字仮名交じりの書の常道として、漢字を仮名より大きく保ちながら、文字の大きさは自身の感覚で調整するとよいでしょう。最終行が少し短いと収まりよく見えます。また私の作例では二行目末を少し右に寄るようにしました。

漢字仮名交じりの書の作品は自由に構成できるのが楽しいのですが、くれぐれも構成ばかりに意識を向けず、筆勢を生かして書くことが大切です。そして、落款は構成によって「しっくりする位置」が異なります。どんな出来でも落款を書き入れて、試してみてください。本文を書き終えても気持ちを切らさず、リズムを大切に、そのまま落款まで書き切るように心掛けてください。